

科目名	英語圏文化論特講	担当者	タケノ カズオ 竹野 一雄	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は英語圏文化のみならず、世界の文化形成に多大の影響を及ぼし、現在もなお広範囲の文化現象と密接に関連する聖書ならびにキリスト教について学び、日本人としてのアイデンティティを保持しつつ、多様な価値観を理解かつ受容し、異文化コミュニケーション力に長けた寛容で信頼できる知識人として自己確立することを目的とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、協働力、洞察力を、身につけることを目指す。</p>		
行動目標	<p>【一般目標 (GIO)】 新共同訳の聖書を全巻読み、英語圏文化の根底に根付くキリスト教についての知識を獲得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 国際語としての英語には日常語においても数多くの聖書に基づく言葉がみられるので、聖書の知識を多く吸収することに努めることは異文化理解の要である。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間、レポート執筆：15 時間、 レポート推敲（教員による添削指導を含む）・最終稿の完成:15 時間</p>		
学修方法	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を行う。 V-CUBE を利用して、オンラインでディスカッションを行う。</p> <p>【学修方略 (LS)】 教材および関連資料を精読した上で、全力で課題に取り組む。レポート作成については草稿から最終稿に至るまで、履修者と担当者のあいだでやりとりを行い着実に進展する。</p>		
スケジュール	<p>課題レポートは前期・後期の定められた期間内に提出すること。ただし、履修者は課題レポート草稿の添削を受け、科目担当者の了解を得たあとに最終稿を提出することとする。</p> <p>前期・後期課題レポート提出の順序</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題レポート作成のための準備作業（教材熟読、担当者との質疑応答、資料収集等を含む） ② 課題レポート草稿を作成しレポートシステムに投稿。 ③ 教員からの添削ファイルないしコメントを受領し、第二草稿を作成しレポートシステムに投稿、このやりとりが何回かつづく。 ④ 科目担当者による最終稿の認定を受け、課題レポート提出完了。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	レポート課題の理解、論旨の明快さ、表現の的確さ、内容の豊かさ 注記などについて総合的に評価
	平常評価	30%	レポート提出プロセスの順守状況、添削コメントに対する的確な応答 内容を評価。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・なによりもまず、エッセイとレポートの違いを明確に認識し、レポート課題に取り組むこと。 ・レポート執筆作業は修士論文作成の練習をも兼ねるので、各自の修士論文テーマに関連した先行研究および参考文献の調査方法を会得すること。 ・レポート課題を読み違えないように再確認して草稿を準備すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： C.S.ルイス著／柳生直行訳 教材名： 『キリスト教の精髓』新教出版社
	C.S.ルイスは20世紀西欧世界における偉大なキリスト教弁証家であり、その著作『キリスト教の精髓』は現代人のために書かれたキリスト教教義と倫理についてこれ以上のものはないと言ってさしつかえない優れた要約である。この一冊を熟読玩味することで伝統的なキリスト教のなんたるかを把握することが可能になるであろう。
参考図書	①竹野一雄著②『キリスト教弁証家、C.S.ルイスの遺産』③かんよう出版、2017
履修上のポイント	基本教材1は厳密な論理的思考によって書かれているので、徹底的に熟読しながら自分の言葉で思索し、書かれていることを批判的に受容し、その後に必要なに応じて参考文献を参照すること。
レポート課題1	『キリスト教の精髓』第1部～第5部の内容を簡潔に要約し、要約作業を通して本作品について忌憚のない読後感を自由に記しなさい。 要約と読後感を合わせて(40字×40字)×3～3.5枚=4,800～5,600字 留意点 ：ルイスの論理的思考をみずからのものにすべく、粘り強く模倣し習得する。
レポート課題2	『キリスト教の精髓』第1部～第5部の内容を理解した上で、それぞれの部から一つの質問を考え出し、それら五つの質問に対する五つの答えを考えなさい。 (40字×40字)×3～3.5枚=4,800～5,600字 留意点 ：問いと答えの作成は容易ではないが、良き質問は良き答えを含むこと、あるいは引き出す事を念頭に置いて作成すること。

基本教材 2	
教材の概要	教材名： 『聖書』新共同訳 [旧約続編つき] (日本聖書協会)
	『聖書』は多様な文学形式で書かれた書物の集成であり、西欧文化形成の重要な源泉。その影響は世界の各地に及び日本文化の一要素ともなっている。
参考図書	①ライケン、リーランド②『聖書の文学』③すぐ書房④1990年(古書)
履修上のポイント	聖書については多数の研究書、解説書が書かれているが、本科目の履修者は、力の限り自分で考えること、ライケン教授の『聖書の文学』のみを参考に聖書を読み解くことを試みて欲しい。
レポート課題1	「創世記」第1章～第3章を精読し、環境保全と環境破壊、男性優位と男女平等軍拡と軍縮など相反する聖書解釈が成立する理由を考え記しなさい。また、聖書は、出生前検査、臓器移植、尊厳死などにつき、どのような見解を含み持つと考えられるか、自分自身の考えを述べなさい。 (40字×40字)×3～3.5枚=4,800～5,600字 留意点 ：聖書は〈生命〉がどのようなものであるとしているかを熟考すること。
レポート課題2	「マタイによる福音書」, 「マルコによる福音書」, 「ルカによる福音書」の中に見て取れるイエスの譬えをそれぞれ3つづつえらび、個々の譬えの主意と今日的意義について自分の考えを述べなさい。(40字×40字)×3～3.5枚=4,800～5,600字 留意点 ：イエスの譬えの前後の文脈を考慮に入れて解説する。